

# キャンパス・アジア提言書

平成26年1月

キャンパス・アジアモニタリング学生部会

平成25年12月11日に行われたキャンパス・アジア参加学生による意見公開を基とし、更なるプログラム向上のため本提言を致します。本提言の構成は、学習面・生活面・その他の項目に分けたキャンパス・アジアの良い点・改善点の現状報告と、それを踏まえた提言から成っています。

## 現状報告

### 学習面：良い点

- 自分の専門外のことも学べて視野が広がった。
- 就職活動では苦勞しつつも自発的に動いた経験、海外で過ごして適応していった体験が有利に働いた。
- 海外の方と歴史について議論する中で価値観のあまりの違いに驚いた。
- やる気のある貪欲な他国の学生に触れてさらにやる気が出た。
- 受入れ側の研究拠点の先生をはじめみなさんが親切で、溶け込みやすい雰囲気である。
- 多様性の中で議論をした良い経験であった。
- 自身のペースで研究活動の時間を管理したり、受講する授業を決定できるのは良い仕組みであると思った。
- 本やニュースで知っていたが、実際の現場に訪問し、自分の目でみて、話を聞く体験ができたのは良かった。現場体験は留学でしか叶えられないことだと思う。
- 日中韓の学生が同じ教室で学んだり、文化交流ができる共通授業やプログラムが存在する大学が一部ある。
- 他の留学制度に比べて留年せずに、また単位交換も認めてもらえるのでよかった。

### 学習面：改善点

- 事前研修がない大学があったので実施してほしい。
- 選択科目が少なすぎたので拡充もしくは他の授業への参加を認めてほしい。
- 用意された授業以外にも単位交換できる柔軟なシステムがほしい。
- 留学先の授業でわからないときにサポートしてくれる同学年の学生と一貫した指導教員（アカデミックアドバイザー）がほしい。
- インターンシップの制度も留学生のために整備してほしい。また、韓国では卒業前から内定した企業でインターンシップに参加するのでキャンパス・アジアに参加する際の期間を見直した方がよいと思う。
- 単位互換制度が整っていない場合があるので、スムーズに互換できる仕組みが欲しい。具体的には、派遣元の大学に戻った後、同じ科目を履修しなければならず二度手間となってしまう。また、そのために成績の互換が不公平になる場合が生じる。

- 学期の始まりの時期が異なる。
- 1つの学部・専門だけが設置されており、自国の大学と専門性が違う場合がある。
- 研究室についての情報が無いあるいは不足している。
- 留学先大学の研究室に個人で問い合わせても返信が来ない場合があった。
- 研究室に属さない場合には日々の学習や研究の拠点が無く、図書館などに行かされ、学生との交流の機会が少なくなってしまう。
- 指導教員間のネットワークができていとよい。
- ダブルディグリーに関して、二大学間で論文を書くとなると指導や発表などで国を行き来しなければならなくなる。またアカデミックイヤーが違い不便。
- 留学前の事前語学研修があると留学してから役立つ。(語学の授業が整備されている例もあり)
- 母国語の授業に参加できなかった。

### 生活面：良い点

- 各国の文化や習慣、考え方の違いに触れて母国を客観的に見直すことができた。
- 各留学プログラムによって留学の目的が異なっていたので様々な経験をした人がいてよかった。
- 留学から帰ってから旅行やシェアハウスや外国の方と交流できてモチベーション維持につながった。
- 勉強以外にもスポーツや料理、旅行などで交流を深めることができ良い友達を作ることができた。
- 自分の時間を自由に管理しつつ、学業に取り組める点は非常に良い制度だと思う。
- 奨学金(航空券・宿泊代)を支給して頂いたのは、当プログラムに参加できる大きなインセンティブとなった。
- 昨年度のCAMPUS Asiaの様子がわかる報告書が存在する大学があり、非常に役に立った。
- サークル活動に入り友人ができた。

### 生活面：改善点

- 朝から晩まで実験ばかりで他の体験ができなかったのもう少し柔軟に経験できるようにしてほしい。
- 日本人の学生は留学中の保険代が全額自己負担だったので補助してほしい。
- 奨学金が各国の物価に換算して支払われているが、それだと日本が多く払い中国が少なくてよいので不公平である。各国が学生に支払う生活費の金額は統一して、その中で保険代や歓迎会などの予算に回す仕組みを作ってほしい。
- 留学先では責任の所在が曖昧でたらい回しにあったので、責任者を明確にしてほしい。
- 言語面で苦勞することがあった(特に大学外でのコミュニケーションにおいて)。
- 奨学金の面で、改善してほしい点がある。
  - ① 支給されるタイミング(留学して2か月経った後に支給して頂いたもので、その間の資金面のやりくりで苦勞をした。留学前に支給して頂くと、非常にありがたいです)
  - ② 支給される額(日本から中国、韓国から日本への留学生は十分な額であるとの認識。但し中国から日本への留学生は、母国との物価の差もあり十分ではないとの認識)

- 日本の学生とのコミュニケーション(彼ら・彼女らは英語を話せるのだが)をよりしたいのだが、その機会を見つけることが難しく孤独感を感じることもある。
- 現地の学生と留学生とで情報の差がありすぎる。
- 聞いていなかった高額なデポジットを払わされる場合があった。
- 学生寮の価格が留学生用は高い。
- 飛行機代が出ないことがある。
- 英語で書かれた教科書は高く負担が大きい。
- 留学先国ではシャワーのお湯が出ないことがある。
- 留学先国では停電が頻繁に起こる。そのため、研究室ごとに発電機があるほどである。
- 留学先国では6階建ての寮であったが、エレベーターが無く大変だった。
- 留学先大学でサポートしてくれる学生の質が悪い場合がある。不真面目な人や業務的な付き合いしかしてくれない人にあたることもある。そのため、大学側は留学生の面倒をきちんと見られる人をチューターに採用すべきである。

### その他の意見

- 就職活動について、
  1. 就活への影響を考慮して留学を諦める人も多い。
  2. 留学先国でインターンをすることもできた。
  3. 留学先国で留学生用の就職合同説明会があった。
  4. キャンパス・アジアオフィスから企業に提出する用の推薦状を書いてもらった大学もあった。
- また、キャンパス・アジアの制度そのものについて
  1. プログラムがいくつかありわかりにくい。
  2. このプログラムの周知をもっとすべき。
  3. 日本の大学間での CAMPUS Asia 学生同士の講習を増やしてほしい。

## 提案

- 大学関係者、政府関係者(文部科学省 etc)、メディア、教授、各企業を招いたうえで、日中韓の学生を一堂に集めた全国の CAMPUS Asia 総会を開催し、CAMPUS Asia の知名度の向上と、学生のモチベーション向上を目指したい。
- 一般学生向けに CAMPUS Asia の授業を履修できるようにし、認定証を授与するコースを作る。
- 複数の大学合同で日中韓から教授を招く公開授業や、シンポジウムなど開催したい
- 大学の CAMPUS Asia ごとの交流以外に、日中韓のすべての CAMPUS Asia の学生をつなぐ全国的・国際的な facebook page を作成する(作成済み、今後周知に力を入れる)
- 各学校に、CAMPUS Asia 学生用のチャットルームを作ることで、学生間の国を超えた交流を促進し、語学力向上や相互理解に繋げる。

以上

「キャンパス・アジア」モニタリング学生部会ワークショップ

(平成25年12月11日 於：東京・学術総合センター)

参加学生リスト

チェ	ビョンユン (CHOI, Byungyoon)	東京工業大学像情報工学研究所 (※韓国科学技術院から留学中)
丁	姿 (DING, Zi)	政策研究大学院大学 (※中国・清華大学から留学中)
藤彌	葵実 (FUJIYA, Ami)	岡山大学法学部
後藤	優美子 (GOTO, Yumiko)	岡山大学経済学部
半澤	雄太 (HANZAWA, Yuta)	九州大学総合理工学府
稲川	雄一郎 (INAGAWA, Yuichiro)	東北大学理学研究科
伊藤	光理 (ITO, Hikari)	名古屋大学法学部
キム	ジェキュン (KIM, Jae Kyung)	名古屋大学理学部 (※韓国・ソウル大学校から留学中)
イ	ヘミン (LEE, Haemin)	名古屋大学法学部 (※韓国・成均館大学校から留学中)
長川	美里 (NAGAKAWA, Misato)	東京大学公共政策大学院
中田	佳珠美 (NAKATA, Kazumi)	神戸大学国際協力研究科
パク	コッソンイ (PARK, KkogSongi)	東京大学公共政策大学院 (※韓国・ソウル大学校から留学中)
坂	一博 (SAKA, Kazuhiro)	一橋大学国際企業戦略研究科
清水	太一 (SHIMIZU, Taichi)	東北大学工学研究科
杉浦	悠太 (SUGIURA, Yuta)	東京工業大学理工学研究科
高木	大地 (TAKAGI, Daichi)	九州大学総合理工学府
武川	基 (TAKEKAWA, Motoi)	早稲田大学アジア太平洋研究科
八間川	結子 (YAMAKAWA, Yuiko)	神戸大学国際協力研究科
赵	韵 (ZHAO, Yun)	名古屋大学工学研究科 (※中国・南京大学から留学中)

※アルファベット順